



インターンシップ風景

松本 私はやはり給料など待遇面が課題だと思います。他の建設会社の友人とも話すのですが、「ちょっと給料がなあ」といった話になってしまいます。

神長 建設業って何でもかんでも資格を求め過ぎなのではないでしょうか。どんなに夢を抱いていても資格、資格で「勉強が難しそう」とか不安になり断念してしまう人もいます。業界自らが若手を遠ざけているのかもしれない。

鈴木 最近入社した後輩の話では、社会に出ると学生生活とは違い、コミュニケーションなど人間関係が難しいと言っていました。

生駒 社会人になると自ら解決しなければならない問題が多々あります。コミュニケーションが大切かと思いますが、私や私より上の年代では、どうしても「今の若い者は」と言ってしまう。若い人たちの考えを理解しようともせず、その一言で片付けてしまいがちです。反省しなければなりませんね。先日、某工業高校の技術発表会を見てきましたが、今の高校生はすばらしいと思いました。最新の機械やコンピューターを駆使し、研究発表に臨んでいました。そうした新人が入社した際には、正しく評価し、能力を発揮できる環境を作り、若者のやりがいにもつなげていくべきだと思います。

吉田 「建設業は昔からこんな感じだよ」と、現状に甘えていたなら、この先一層若い方の参入はないでしょう。神長さんの「やりがいだけでは乗り切れない」という一言は大変心に響きました。そのやりがいだけをもって、踏ん張っている皆さんのためにも環境改善していかねばと思います。

荒井 今の世の中は、即戦力を求めがちです。我々、中小建設業においても、一昔前は時間をかけ、もう少し緩やかに教えていたように思いますが、今は限られた人員しか雇えない状況の中で、先輩たちも即戦力を求めるあま

り、皆さんにプレッシャーを掛けてしまっていることが多々あるかと思います。我々が改善しなければならないところですね。時代は繰り返されるものです。良き時代が再び来ることを信じています。若い皆さんの力を借り、そのような時代を築き上げていきたいですね。

■語り継がれる仕事残そう

——最後に、皆さんの後輩となるかもしれない、現役高校生らにメッセージをお願いします。

鈴木 建設は幅広い分野の業界です。また、現場管理もあれば、技術屋、材料屋など、たくさんの人と関われる仕事です。ものづくりがしたくて大きな構造物に憧れる人は、ぜひ高い志を持って建設業を目指してください。

神長 本当にやれるかな、大丈夫かなという不安のある方もいるでしょうが、やる気があれば何とかなるものです。皆さんのやる気を建設業界にぶつけて欲しいです。

野口 実際、業界に入ってから苦勞する面は多いと思いますが、苦勞した分だけ、楽しいことや達成感も返ってきます。国のため、地域のためにという思いで従事すれば、辛さも楽しさに変わってくるでしょう。

松本 確かに大変な面はありますが、建築は自分一人じゃないし、必ず周りがフォローしてくれるはず。周りを信じ、自分を信じて一歩踏み込んでみてください。

生駒 若者には「失敗を恐れるな」と言いたいです。どんどんチャレンジしてください。現場でも、事務所でも相互に理解し合える人間関係を築いてください。そうした自分たちの経験談が後輩に語り継がれていくことが大切だと思います。

地球をキャンバスに、自分たちの描いた「作品」が後世まで語り継がれるような夢のある仕事をして、共に達成感を味わいましょう。



栃木県建設業協会座談会に集まった広報委員会役員と、県内の若手技術者＝栃木県建設産業会館

